

本校2年生SSHクラスと、台湾の台北市松山高級中学(Taipei Municipal Song Shan Senior High School)の生徒との第一回オンライン交流会が去年に続き、開催されました。

◆10月20日(木)～21日(金)

2年A,B組のSSHクラスの生徒ひとりひとは、松山高級中学1年生(台湾の全日制高校の1年生に相当)の生徒一人とbuddyになりました。交流前に相手校生徒と電子メールのやりとりを行い、自己紹介を済ませた後、オンライン交流が実施されました。20日は、2Aクラスによる交流が、21日は、2Bクラスの交流が行われました。交流はすべての生徒が一旦、共通のオンラインミーティング用メインセッションにログインしました。その後、ブレイクアウトルームと呼ばれる小部屋で、本校2名と相手校2名の生徒のグループ毎に行われました。当日は、20分間程度の短い時間でしたが、初日の一部のテクニカルトラブルを除いて、おおむねスムーズに行われました。

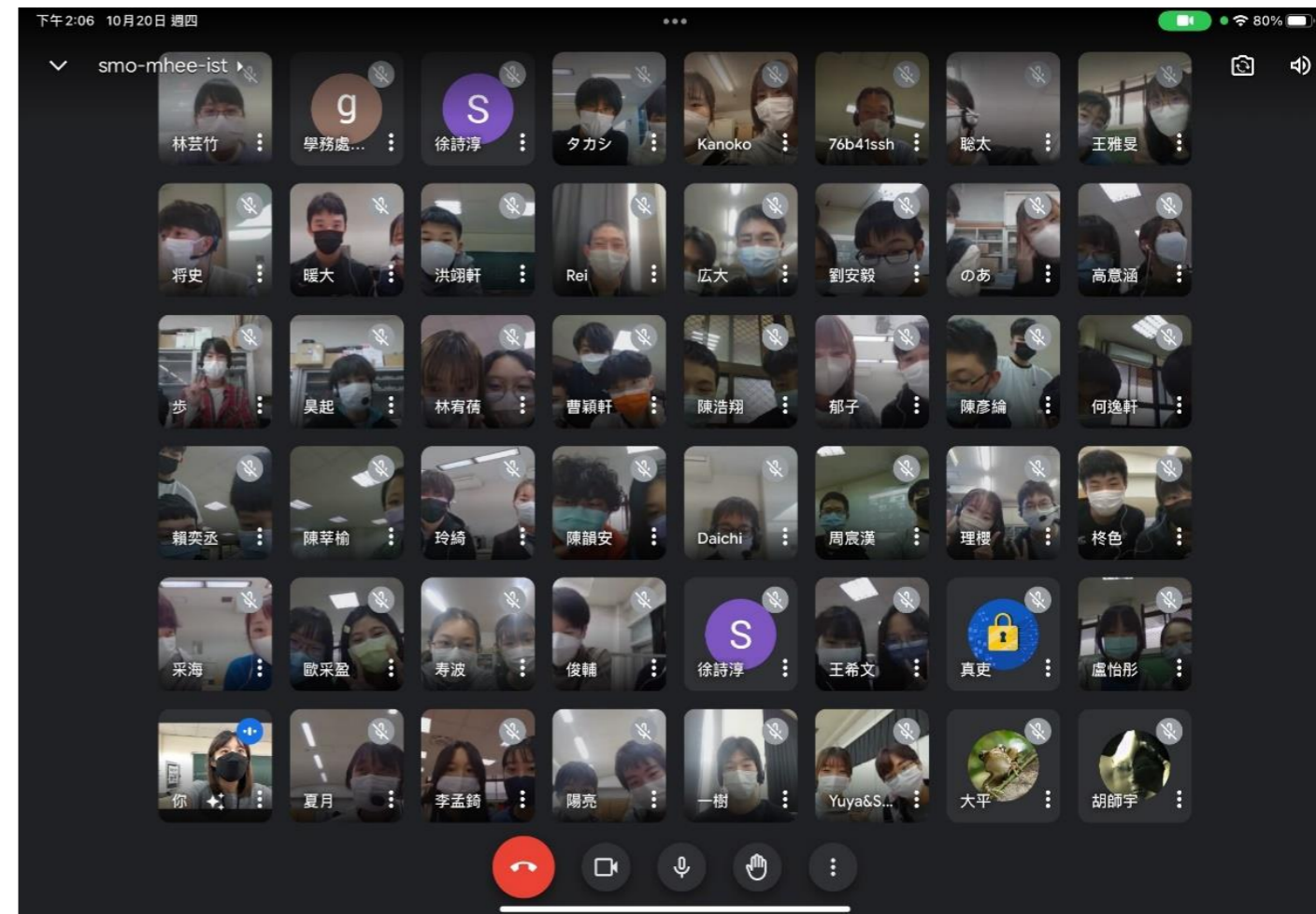
生徒の中には、自分の言いたいことがすぐに出てこなかったり、電子辞書を使って英単語を調べて、「昔」って何て言うんだっけ、などと言って考えながら交流していました。

実施後のアンケートでは、SSHクラス生徒の60%近くが楽しかった、まあまあ楽しかったと回答し、7割以上が松山高級中学との交流会をもう一度行いたい、もう一度やってもいいと考えています。ネットワーク環境が悪かったという声も聞かれました。

今回気づいた改善点、反省点をもとに、それらの対策をしっかりと行った後、2回目の交流を12月下旬に行う方向で検討しています。その際は、基本本校、相手校の生徒の1対1の交流にして、それぞれ生徒たちが行っている自らの研究についてお互いに伝えあい、質問したりする時間にするを考えています。



オンライン交流の様子^



オンライン交流のグループフォト

生徒たちのアンケート結果の一部を下記に掲載します。

・自分の英語力がまだまだ低いことに気づいた。伝わらと思ってた内容が相手に全く伝わってない時にその説明をより簡単な英語でするのが難しかった。しかし、国は違えど同じ学生なので眠い授業などが一致していておもしろかった。事前のメールでやり取りもしていたのでそこまで緊張もしなかった。

・交流相手と喋ったこと自体は楽しかったのですが、自分の英語の発音が悪いのと、マイクがあまり声を拾ってくれてなかったの、それがなければもっと楽しいものになったと思いました。あと途中でハウリングがあったり、声が途切れ途切れになっていて、そこが治れば楽しい交流になると思います。自分の英語力に関しては話す力を上達させる必要があると感じました。あと交流の事前に準備することの大切さもよくわかりました。

・ある程度自分で話すことはできたけれど、リスニングができず、相手の話をあまり聞けなかった。台湾の人の英語力に驚いた。機械の問題なんですけど、全体のミーティングでは相手の声が聞こえたが、ブレイクアウトルームに入ってから相手の声が聞こえなくなりました。

・英語を話してみると、なかなかすぐ出ないものだなあと感じました。スピーキングの練習も日常で取り入れたいです。英語のリスニングが大変だった。

・日本語が分からない相手に何かを伝えることの難しさを知った。